

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社EdulinX

【ツール名】

Reallyenglish

【ツールの機能分類】

オンライン語学学習

2022年2月

END-TO-END
EDTECH SOLUTIONS

Explore your endless learning possibilities

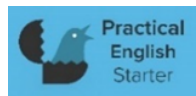


ツール紹介

メインツール



①Practical English 8 診断テスト付き50レッスン (16,500円)
文法、リスニング、リーディングの診断テストを受験した後、受講者ごとに個別最適化された難易度のレッスンを提示。
英検準2級から1級の難易度に対応。



②Practical English Starter (38,500円)
文法、リスニング、リーディング、スピーキングのレッスンを収録。
英検準2級から1級の難易度に対応。



③EZ to Talk 2 (36,300円)
eラーニングで予習した後、外国人教師とマンツーマンの英会話レッスン (25分間) を行うスピーキング力強化コース。
英検準2級から1級の難易度に対応。



④Improve your English Classes -Speaking Lessons- (4,400円)
英語で授業をするためのアイデアと英語での指導に欠かせないスピーキング力を磨くトレーニングコース

オプションツール



Level Lingo (オープン価格)
：オンライン4技能テスト。スマートフォン受験可能。

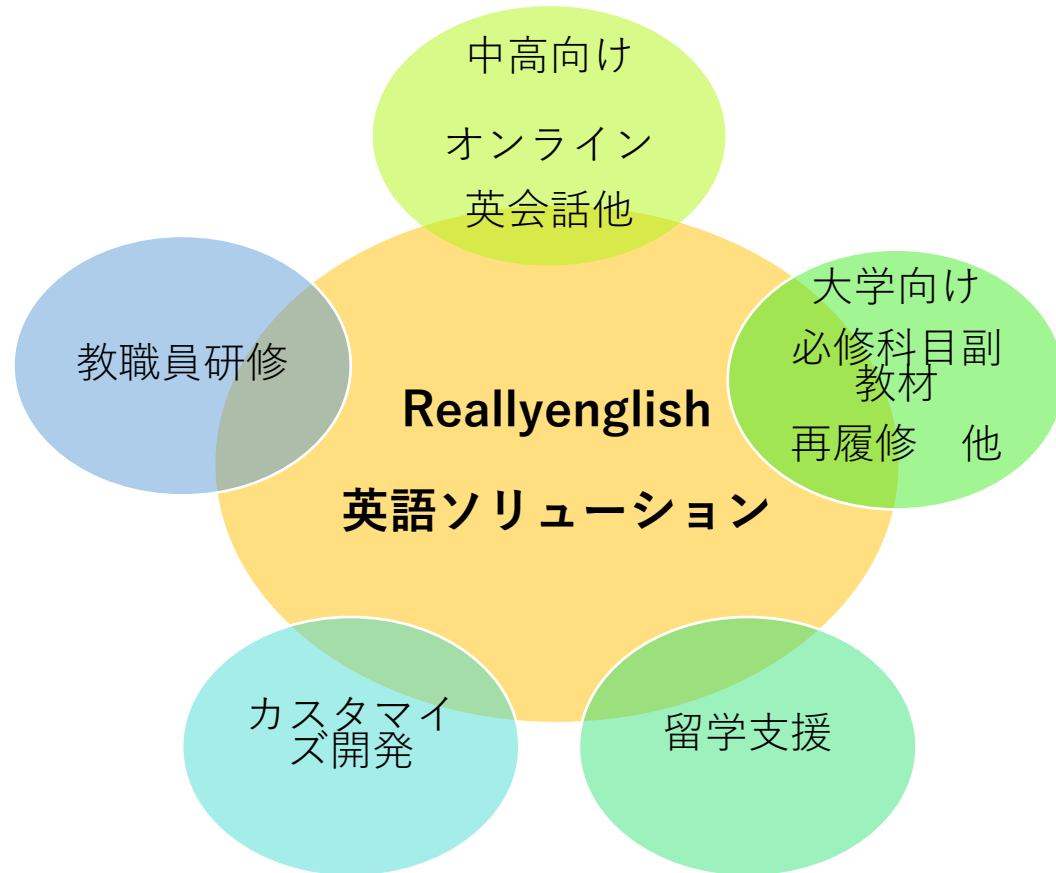


E-CAT (4,950円)
：オンラインスピーキングテスト。

ツールの特徴

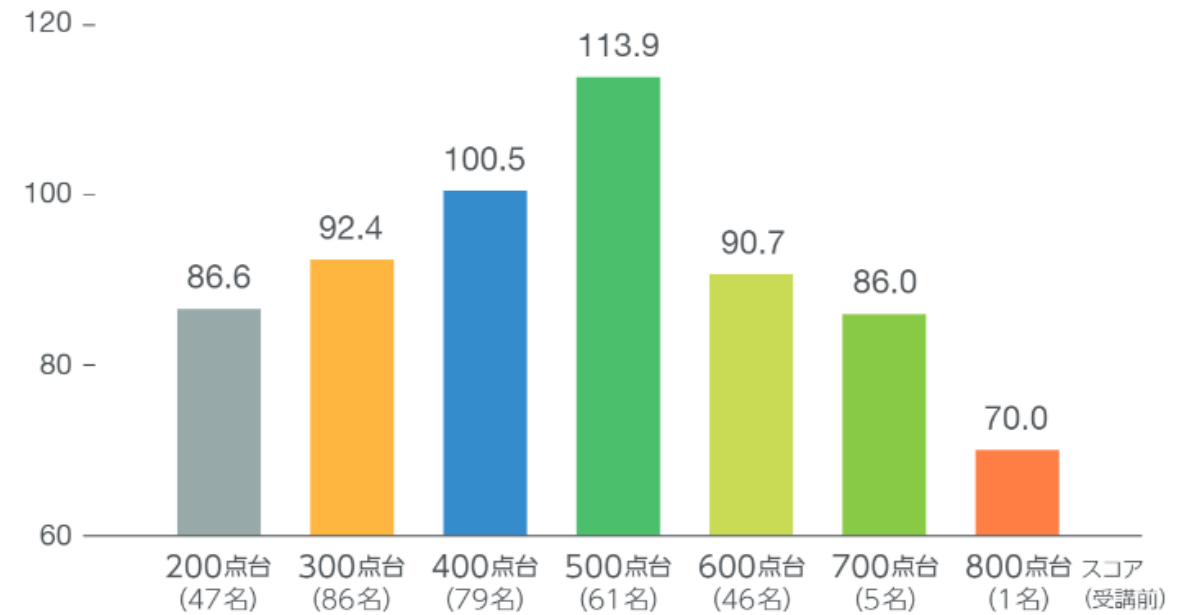
- 弊社では、特別な専用サーバが設置不要な「クラウド型」サービスを提供しています。
- クラウド型サービスのため、OS、ブラウザ、その他周辺ソフトウェアの最新バージョンがリリースされるとそれに合わせて弊社システムをアップデートいたします。
- 学内でのサーバ設置、準備が不要なため、利用決定から最短5営業日以内にご利用開始することが可能です。
- お支払いは発行したライセンス数に応じた金額となります。登録費やメンテナンス費等は不要です。
- 学校予算でのお支払いの他、コンビニ決済／クレジットカード決済サービスを使った受益者負担でのお支払いも可能です（先生や職員様に集金の手間を省けます）。
- ライセンス料は安価なものでは2,000円台からご用意しており、個別のご相談も随時承ります。
- 大口案件向けの「サイトライセンス契約」もご用意しております。詳しくは弊社営業担当までお問い合わせください。

活用場面



ツール活用による効果

TOEIC®L&R 平均
97点アップ



調査データ

- 調査対象: 325人
(2017年3月末までに修了したグローバル人材 育成研修、グローバルリーダー教育、昇格候補者研修、内定者教育、新入社員研修の中から任意に抽出)
- 平均: 97.1点アップ
- 受講コース: 総合英語コース 6 (現総合英語コース 8)
- 平均修了基準 (レッスン数): 104.8レッスン (最小80 ~最大120レッスン)
- 平均修了基準 (正答率): 66.4% (最小60 ~最大80%)
- 平均受講期間: 6カ月

■ 学校等教育機関の抱える課題

課題 1.

得意分野・苦手分野や習熟度が異なる生徒一人一人に対して、より効果的な学習機会の提供を模索していた。

→診断テスト等のスコアで個別最適化された学習内容が提示されるPractical English 8の活用を提案した。

課題 2.

他教科との兼ね合いや対面授業の実施が困難な中、生徒に対してより効率的な英語学習機会の提供を模索していた。

→対面授業の代替となりうるEZ to Talk 2（外国人講師とマンツーマンの英会話レッスンを行う講座）の活用を提案した。

Practical English 8で個別最適化された学習を提供することで、基本的に同じ学習内容を足並み揃えて学ぶ対面授業形式ではカバーしきれない個々の習熟度に合わせた学習を提供した。

課題 3.

数少ない英語教員が校務と並行して、一人一人の生徒に対してきめ細かな指導を行うために、業務効率と教育の質の担保の両立を模索していた。

→生徒が自律的に学習できるオンライン教材の利用を提案。教員は学習管理機能を使うことで、進捗を確認、生徒に対し適切かつきめ細やかなフィードバックを返して頂くことで、教員の業務効率化を提案した。

課題 4.

インプットに偏重した英語教育から脱し、生徒に英語を使うことの楽しさを実感してもらうことを模索していた。

→EZ to Talk 2の活用を提案し、生徒が日本語の通じない外国人講師と英語を使ってコミュニケーションする機会を増やした。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

長崎県立大村城南高等学校の事例

- 導入ツール：Practical English Starter, Practical English 8(50レッスン版)
- 授業内で「帯活動」*としてPractical English Starterを活用。授業開始10分程度時間を確保し教員が指定したレッスンを学習。eラーニングの付属プリント（PDF）を印刷し、一部利用方法をアレンジしながら、授業内で利用するケースもあった。
- 授業外では、Practical English 8（50レッスン版）を課し、本ツールに付属する診断テストおよび個別最適学習機能（アダプティブフォーカス）を活用し、個々の生徒の英語レベル、得手不得手に合わせた個別カリキュラムによる学習を実施。

*帯活動：授業冒頭のウォームアップの後、もしくはウォームアップとして、毎回の授業で短時間、継続的に行う活動のこと

I lived in New York past tense of be; regular past tense

Warm-up



In pairs, take turns to talk about yourself at the age of 14. Ask your partner lots of questions.

Talk about your ...

- home life
- school
- hobbies
- hopes for a job

Activity 1: Language presentation/review

a. Read and listen to the text. Did the man have a nice childhood?

I lived in New York when I was a young child. My father wasn't at home much because he worked long hours in an office. My mother was always at home. They were both very tired in the evenings, so they weren't very lively! I studied at a school near my house. I liked school a lot. There was a park close to my house and when my father retired we played tennis together every day. I remember we were very happy.

b. Read the text again and complete the grammar rules below.

▼付属プリント（教師用）

TEACHER'S NOTES grammar: past tense of be; regular past tense

c. Demonstrate the activity by telling them something about the bullet points (home life, etc.) and encourage students to ask

Then put students in pairs and ask them to take turns to talk about what they were like at the age of 14. Tell them to use the prompts in the bullet points.

Activity 1: Language presentation/review (10 minutes)

a. Allow students time to read the text and optionally listen to the recording. Elicit the answer to the question (= yes, he and his family were happy).

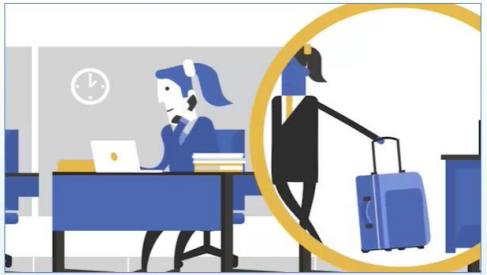
b. Get students to complete the gaps in the grammar rules box. Check the answers as a class and use the board to show students how the spelling changes for verbs ending in y, for example *dry = dried*, and how the last consonant doubles for verbs that end in consonant, vowel, consonant such as *stop = stopped*.

Answers:
Past of verb to be: you **weren't** busy, he/she **was** at work, we **weren't** tired, they **were** happy
Regular verbs in the past: *liked, moved, hated, married, dried, carried, shopped*.

Activity 2: Pronunciation (8 minutes)

Write the following verbs on the board: *walked, married, hated*. Explain to students that the pronunciation of -ed changes for these verbs. Write t under *walked*, d under *married*, and id under *hated*. Repeat the verbs a few times aloud so students can hear the sounds at the end of the words, and then get them to repeat after you.

■実際の受講画面（Practical English Starter Grammarレッスン「I lived in New York」）



00:22 -00:07

My boss was on a business trip.

過去形

be 動詞の過去形

be 動詞の過去形 (past simple) は was または were です。現在形で is を使う主語には was を、現在形で are を使う主語には were を使います。

I was a child.

(私は子どもでした)

He/She was tired.

(彼/彼女は疲れていました)

You were busy.

(あなたは多忙でした)

We were happy.

(私たちは幸せでした)

They were children.

(彼らは子どもでした)

be 動詞の過去形（否定）

過去形で be 動詞の否定形 (negative) を作るには、was not, wasn't, were not, weren't を使います。現在形で is not / isn't を使う主語には was not / wasn't を、現在形で are not / aren't を使う主語には were not / weren't を使います。

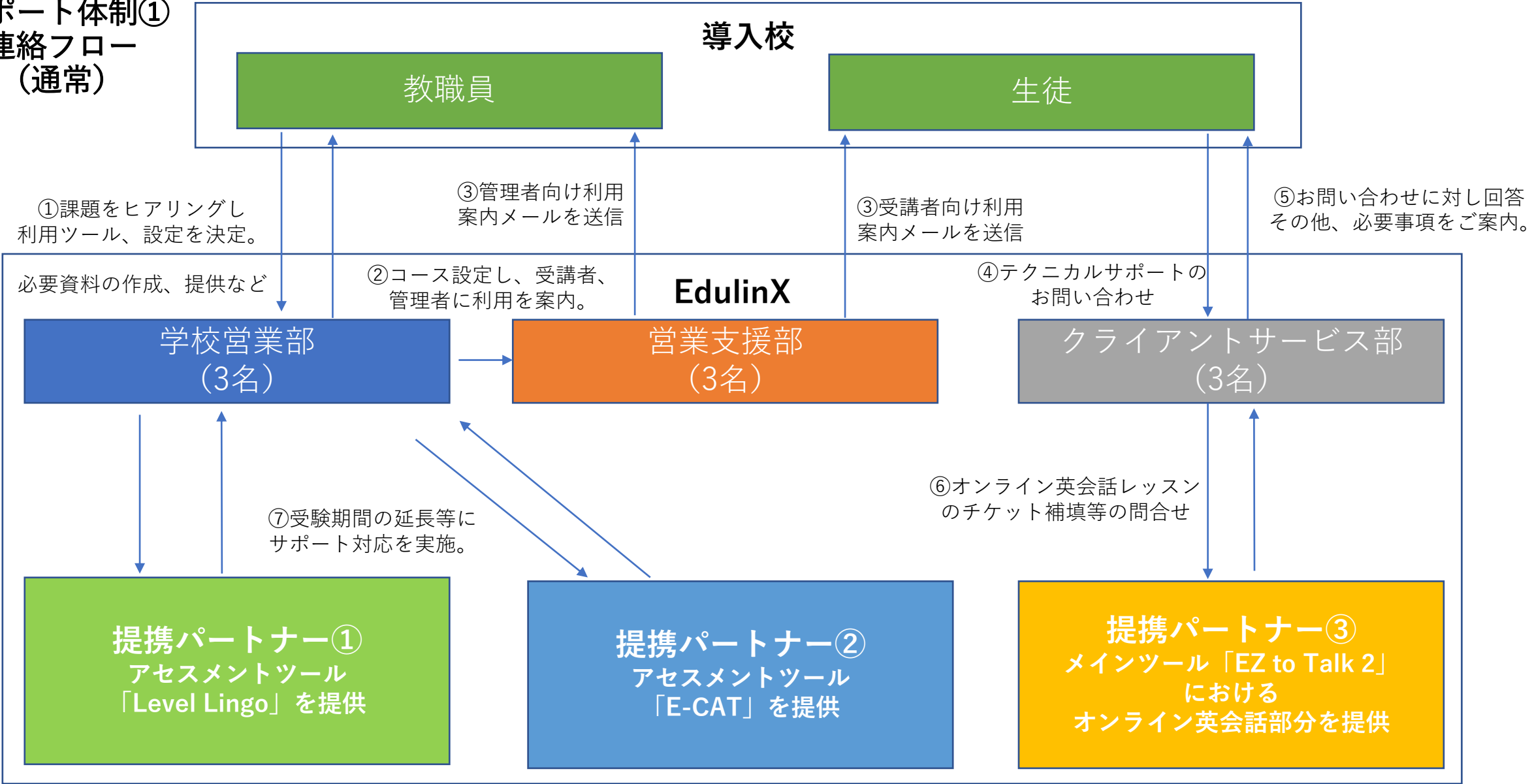
■実際の受講風景（他導入校での『EZ to Talk 2』の受講風景）



こちらの導入校では、授業時間外にオンライン英会話を受講するよう指導。
放課後の空き教室を開放し、事前に予約をしていたレッスン受講のある生徒が各自のスマートフォンもしくは学校タブレット端末で進めていた。

■ 補助事業において実施したサポート内容

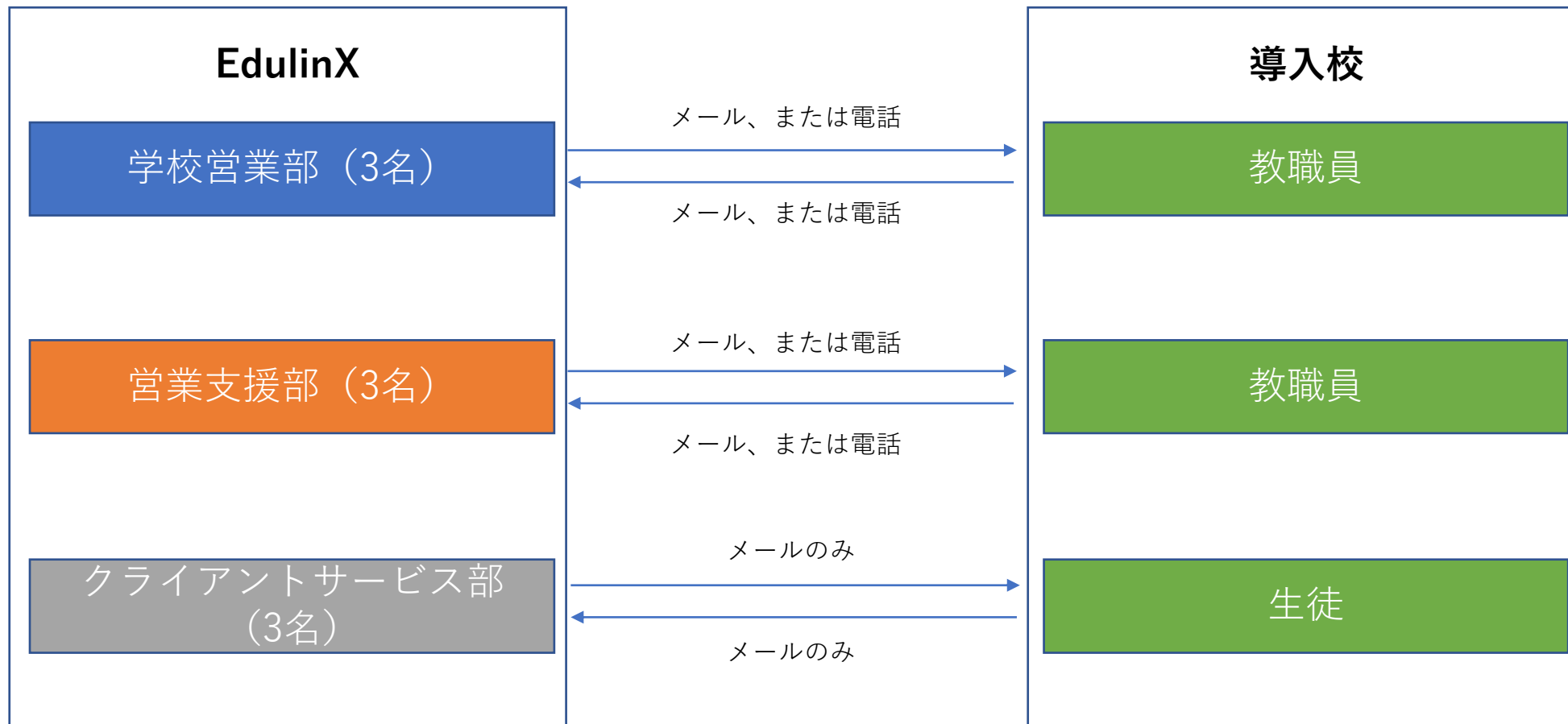
サポート体制①
連絡フロー
(通常)



■ 補助事業において実施したサポート内容

サポート体制②

コミュニケーション方法（通常）



通常のサポート対応時間は、平日9:30-18:00です。

ただし、今回のEdTech導入補助金事業においては不測の事態（例：2021年12月にフィリピンで発生した台風被害）が発生した際、土日祝日もサポート対応いたしました。

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

設置者	教育機関	全校生徒数	今回の ツール受講者数 (+教員)	利用ツール
長崎県教育委員会	長崎県立大村城南高等学校	190	106+4	Practical English Starter Practical English 8 (50レッスン版) アセスメント付 (Level Lingo)
宮城県教育委員会	宮城県築館高等学校	533	144	EZ to Talk 2
学校法人石山学園	会津北嶺高等学校	360 120名×3学年	210	EZ to Talk 2 アセスメント付(E-CAT) Practical English 8(50レッスン版)
学校法人金剛学園	大阪金剛インターナショナル 中高等学校	74	74 + 5	Practical English 8 (50レッスン版) アセスメント付 (Level Lingo) 英語の授業力アップ! スピーキング講座 アセスメント付 (E-CAT)
香川県教育委員会	香川県立高松商業高等学校	895	117 + 8	Practical English 8 (50レッスン版) アセスメント付 (Level Lingo) 英語の授業力アップ! スピーキング講座 アセスメント付 (E-CAT)

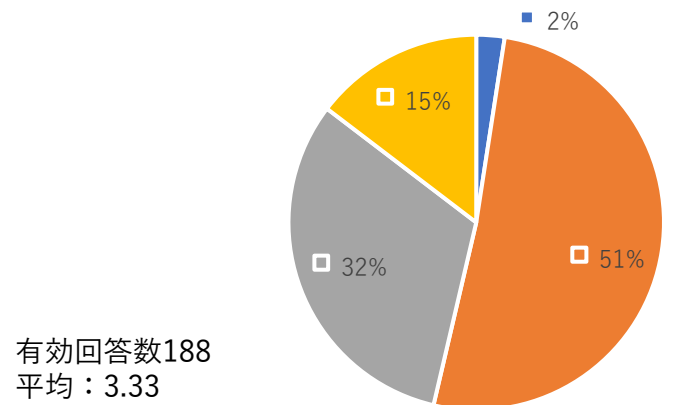
●全校生徒数はインターネットでの調査に基づき記載していますが、実際の生徒数と異なる場合がございます。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

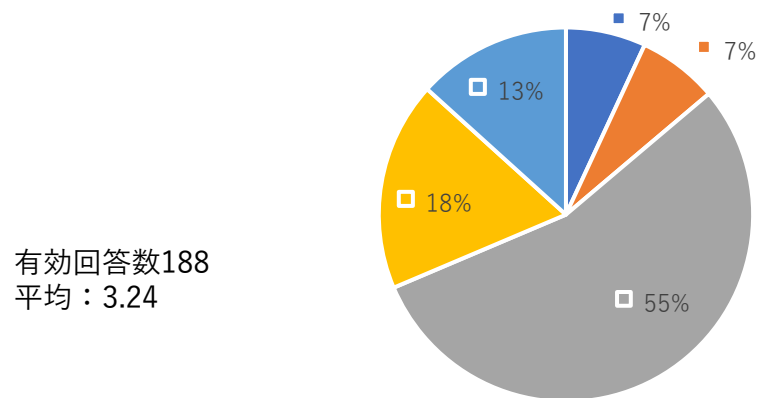
本補助金申請時に立てた「学校等教育機関の抱える課題（および当社の解決策）」の検証のため、完了報告後の2022年1月末～2月上旬にかけて、受講者および管理者に対して、オンラインアンケートを実施した。

受講者アンケート結果①

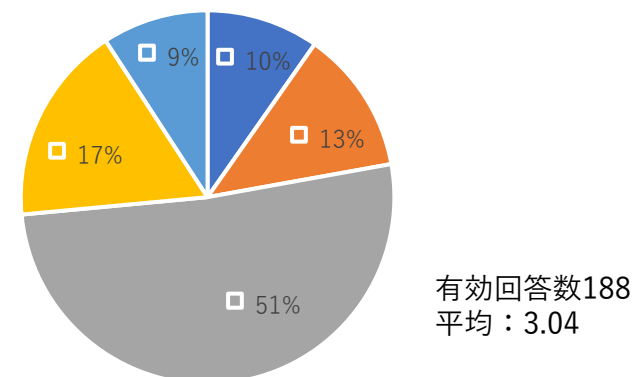
Q1) 従来の紙媒体での学習と比べて、eラーニングでの学習の方が「生きた英語」を学習できましたか。



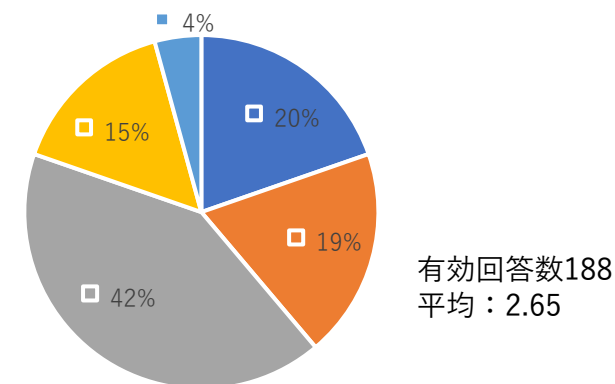
Q3) 新型コロナウイルス感染症の拡大により、今後オンライン授業が行われるようになった場合、今回ご利用いただいたeラーニング教材は「学習の遅れ」を生まない有効な策だと思えますか。



Q2) eラーニング教材での学習を行うことは、従来の紙媒体での学習と比べて、学習意欲が湧くものでしたか？



Q4) 今回のeラーニング教材を引き続き利用したいと思いますか。



1 2 3 4 5
1 = そう思わない、5 = そう思う

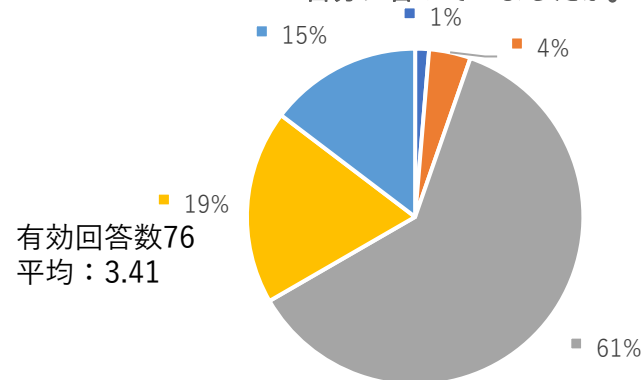
■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

本補助金申請時に立てた「学校等教育機関の抱える課題（および当社の解決策）」の検証のため、完了報告後の2022年1月末～2月上旬にかけて、受講者および管理者に対して、オンラインアンケートを実施した。

受講者アンケート結果②

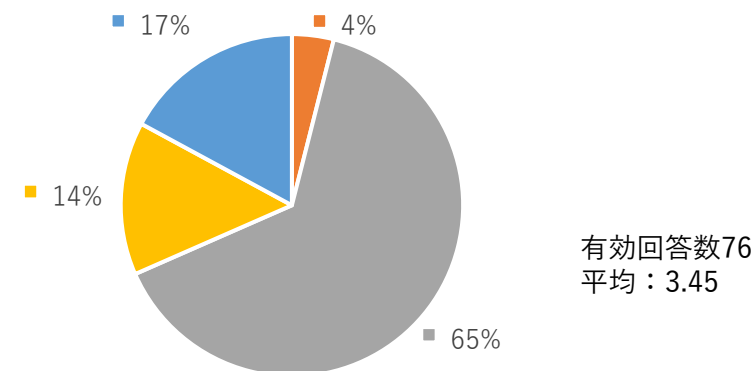
Q5) Practical English 8の個別最適化学習は

自分に合っていましたか。

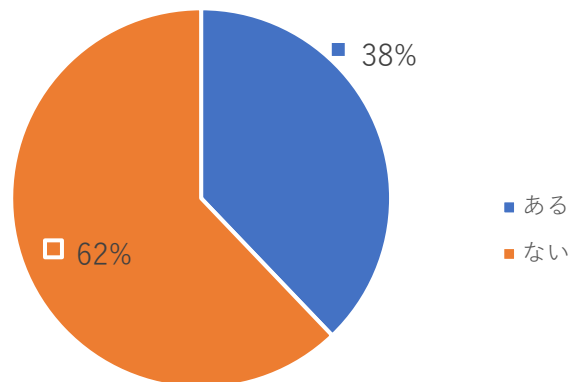


Q6) Practical English 8の個別最適化学習で、

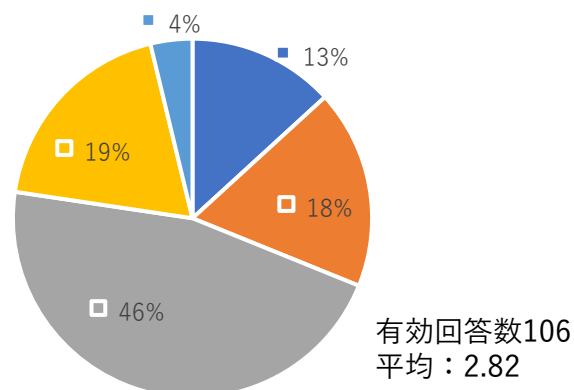
学習効率化は図られましたか。



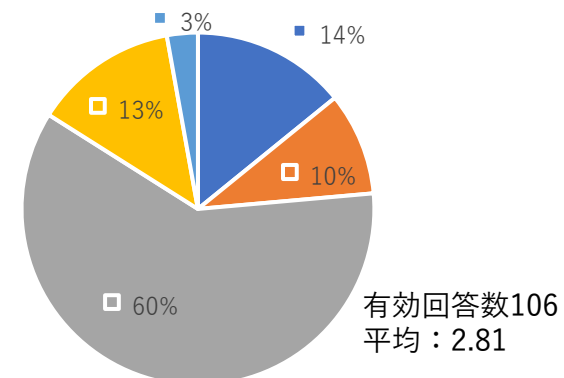
Q7) 過去にマンツーマンで外国人と英会話の経験がありますか



Q8) オンライン英会話を受けることで、英会話に慣れることができましたか？



Q9) 実際に外国人講師とマンツーマンで英会話のトレーニングを積むことで、英語学習へのやる気は上がりましたか？



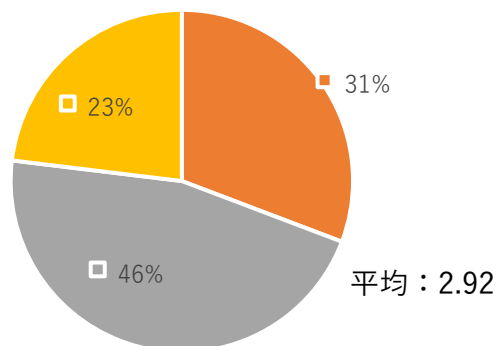
1 = そう思わない、5 = そう思う

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

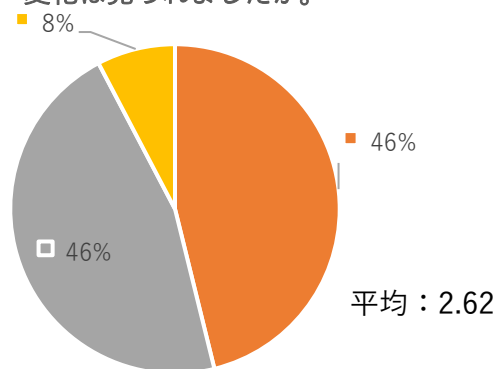
本補助金申請時に立てた「学校等教育機関の抱える課題（および当社の解決策）」の検証のため、完了報告後の2022年1月末～2月上旬にかけて、受講者および管理者に対して、オンラインアンケートを実施した。

管理者アンケート結果（有効回答数13）

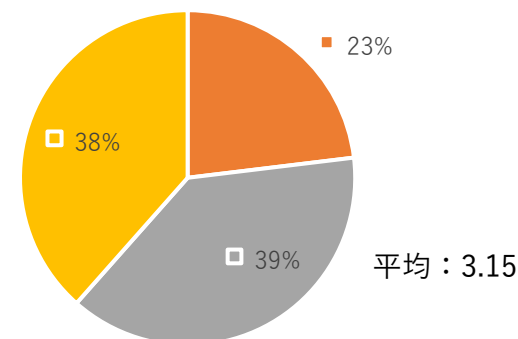
Q10) Reallyenglishの導入によって、生徒の英語力に変化は見られましたか。



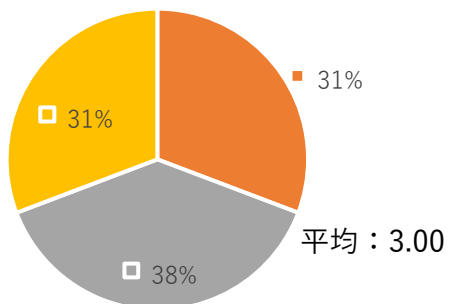
Q11) Reallyenglishの導入によって、英語を苦手とする生徒の学習姿勢に変化は見られましたか。



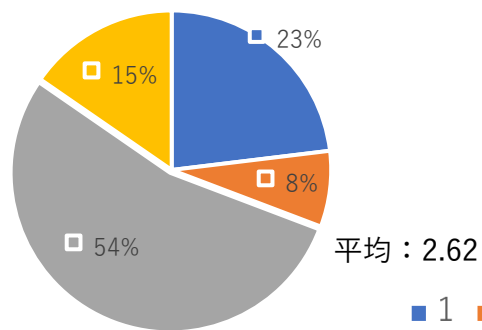
Q12) Reallyenglishの導入によって、生徒の学習意欲に変化は見られましたか。



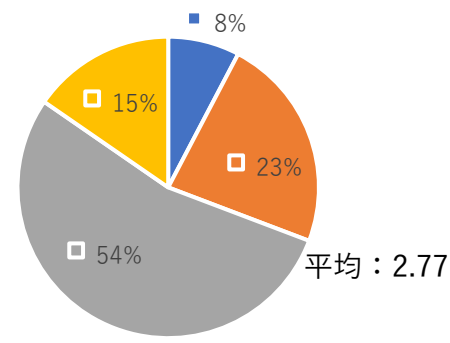
Q13) Reallyenglishの導入によって、先生の授業運営にポジティブな変化はありましたか。



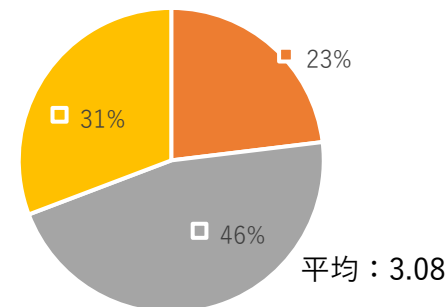
Q14) Reallyenglishには、管理者専用機能Managerが備わっていますが、本機能を積極的に活用しましたか。



Q15) Reallyenglishの導入によって、先生の成績管理の効率性にポジティブな変化はありましたか。



Q16) Reallyenglishは導入前の期待をどれくらい満たすものでしたか。



1 2 3 4 5

1 = そう思わない、5 = そう思う

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

定性分析・考察：受講者・管理者アンケートをもとに

1. 受講者アンケート結果分析

- ✓ 従来型の対面授業形式では実現が難しい「個別最適化された学習」への評価（Q5, Q6）は他の項目よりも高かった。
→P7の課題1、課題2の解決に寄与したと考えられる。
- ✓ eラーニングという学習形態の評価（Q1, Q3）は高かった一方、今後も継続したいかどうかの設問（Q4）はスコアが3.0以下であり、継続したい生徒と継続したくない生徒が分かれる形となった。
- ✓ オンライン英会話について、過半数の生徒が「英会話に慣れることができた」「英語学習へのやる気が上がった」と回答する一方、一定数の生徒に対しては英語でのコミュニケーションのハードルの高さを感じさせる結果となった。（Q8, Q9）
→P7の課題4の解決におおむね寄与したといえるが、「楽しさを実感してもらう」までに至らなかった生徒も存在する。

2. 管理者アンケート結果分析

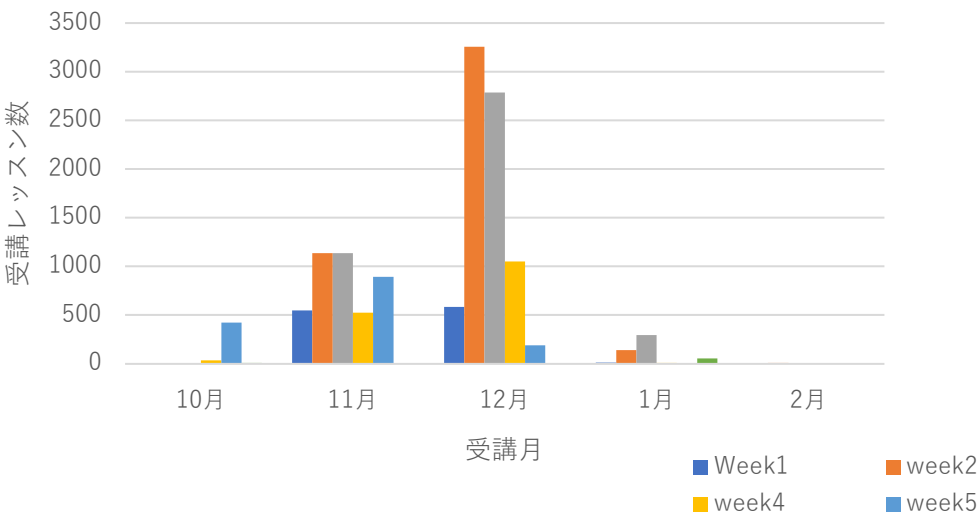
- ✓ 生徒の学習意欲や英語力に変化が見られたとする回答が多かった一方、英語を苦手とする生徒への効果実感は小さかった。（Q10～Q12）
- ✓ 教員自身の業務効率や授業運営への効果実感は大きくなく、学習管理システムの活用を積極的に行った事例は限定的であった。（Q13～Q15）
→P7の課題3の解決に寄与するには十分に至らなかったと考えられる。
- ✓ 今回の補助金で導入したツールが、導入前の教員の期待をどの程度満たすものだったかという設問の回答は3.08で、3/4程度は期待通りもしくは期待以上という評価だった一方、1/4程度は期待を下回る結果となった。（Q16）

3. 全体考察

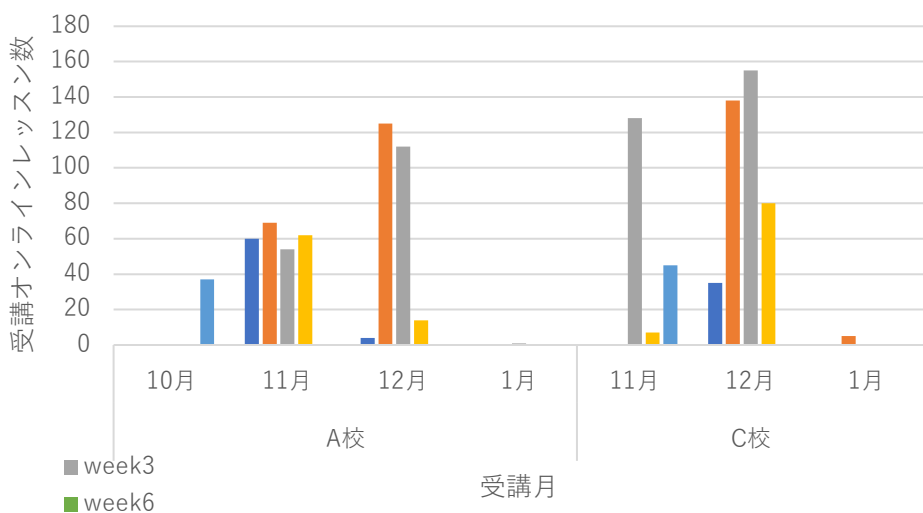
- ✓ 従来型の対面による紙媒体を使った授業とは異なるeラーニングという学習形態への期待は大きい一方、生徒が自分事として考えた際に効果を十分に感じられておらず、かつその程度が教員よりも大きかった。これは、授業内での活用が限定的だった点、実施期間が十分ではなかった点、「このように使うと効果的」という成功事例や参照すべきモデルケースが不足していた点などが考えられる。
- ✓ 教員に対しては、eラーニングの活用法や授業内での組み込み方など、先行事例も参考に具体的に提示することで、事前準備等、過剰な負荷をかけることなく、実際に導入できるのではないかと推察する。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

受講頻度（全組織）



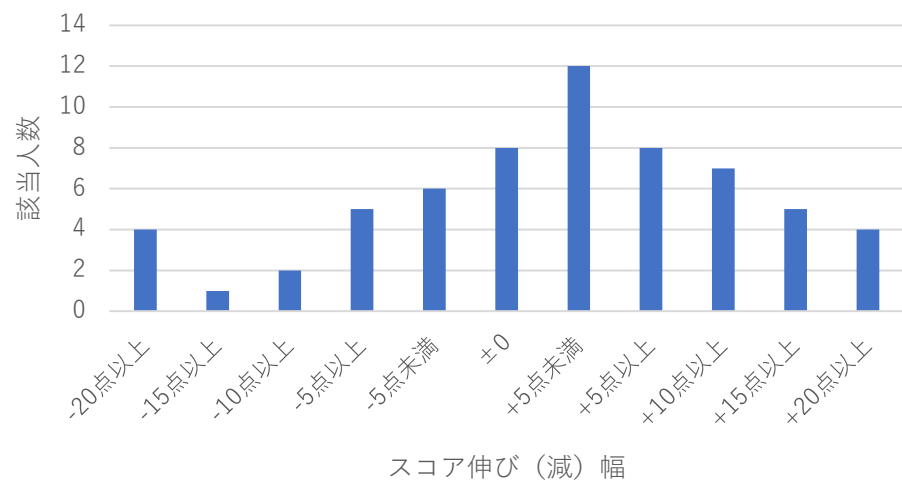
受講頻度（オンライン英会話）



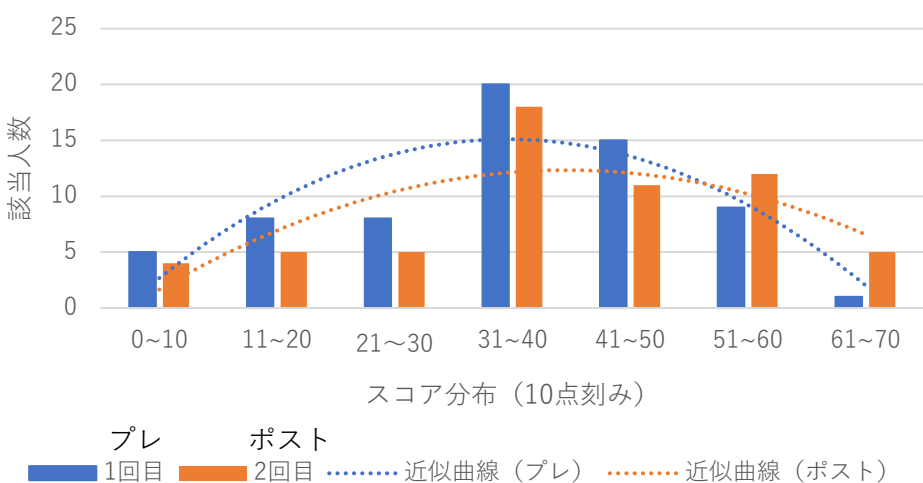
- ✓ EdTechツールを納品し、順次受講開始となった10月以降、比較的コンスタントな学習が見られる
- ✓ 12月の学習が顕著に伸び、集中的に学習がなされている

↓
12月27日の完了報告に向けてフォローアップがなされたと推察される

A校 E-CAT（スピーキングアセスメントテスト）
スコア伸び分布（N=62）



A校 E-CAT（スピーキングアセスメントテスト）
プレ/ポスト比較（N=62）

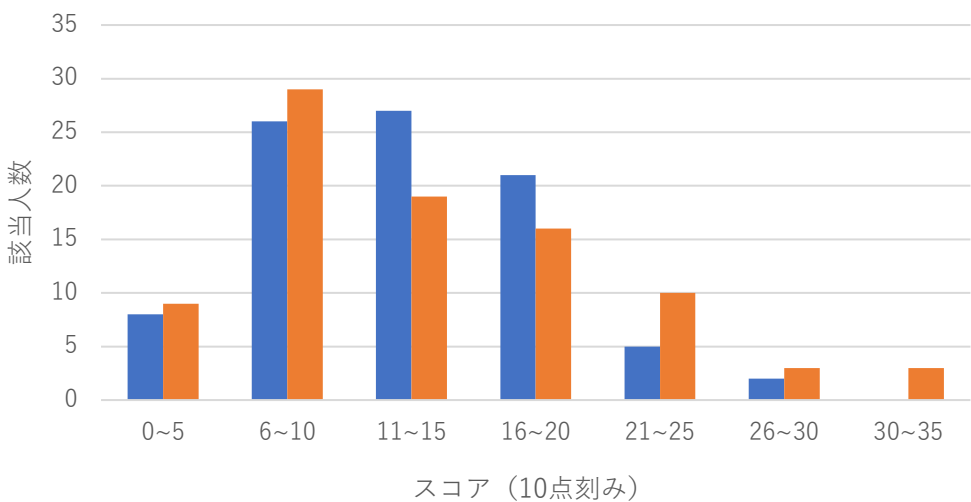
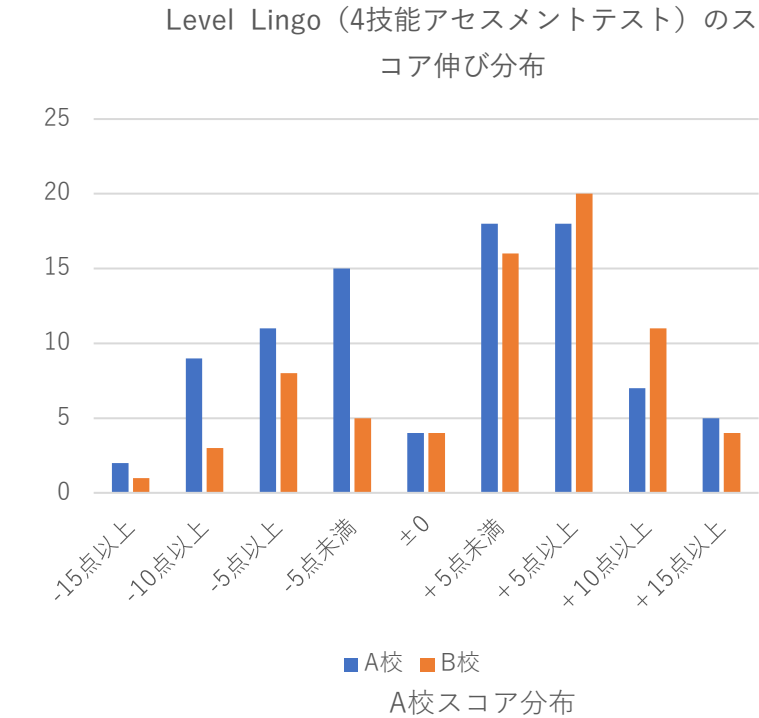


- ✓ プレテストよりもポストテストの方が頂点が得点帯に分布
- ✓ 高得点帯の分布もポストの方が多い

↓
EdTechツール（EZ to Talk 2）の利用によって、学習効果の現れた受講者がいたことが推察される
受講によって英語スピーキング力が下がるということは考えにくいので、テストスコアが減少してしまった受講者については受験環境等の影響が考えられる

Score	英検	CEFR
0～9	-	-
10～29	-	A0
30～49	3～5級	A1
50～69	準2級	A2
70～89	2級	B1
90～100	準1級	B2

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

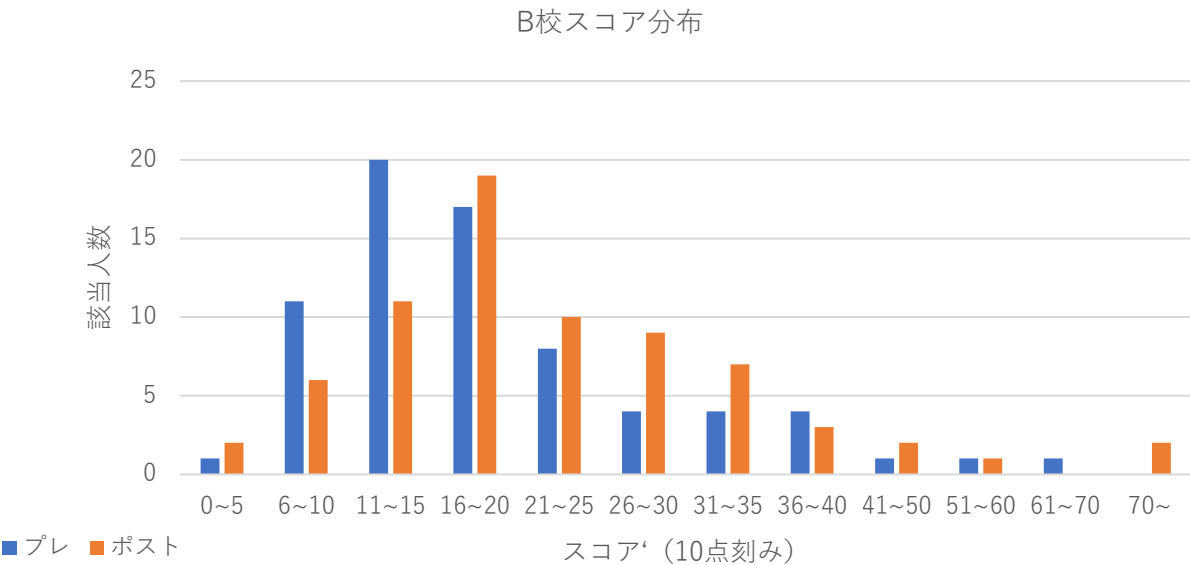


■ EdTechツール（Practical English 8, Practical English Starter）受講状況・Level Lingoスコア概要

区分	登録済み			修了者		合格レッスン数		受講レッスン数		受/合	サインイン回数		成績平均	Level Lingo			
		順調以上	進捗遅れ		%	Ave.		Ave.		比	Ave.		%	有効受験数	プレスコアAve.	ポストスコアAve.	スコア伸び
A校	118	13	14	91	77.1%	3872	32.8	12473	105.7	3.2	2470	20.9	32.74	89	12.64	13.67	1.0
B校	103	3	66	3	2.9%	1129	11.0	1544	15.0	1.4	1013	9.8	82.07	72	19.99	22.99	3.0
全体	221	16	80	94	42.5%	5001	22.6	14017	63.4	2.8	3483	15.8	57.40	161	16.31	18.33	2.0

*受/合比：1レッスン合格あたり何回取り組んでいるか（値が大きければ大きいほど取組回数が多い）
*順調以上：システム上の修了条件到達までの標準ペースに則している/進んでいる受講者
*進捗遅れ：システム上の修了条件到達までの標準ペースよりも遅れている受講者
*Level Lingoのスコア換算は右表の通り（実際には複数の要素を基に多角的に算出されている為あくまで右表は目安）

Overall Score	英検
0～14	3～5級
15～22	準2級
23～40	2級
41～	準1級



■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

定量分析・考察：アセスメントテスト結果/EdTechツール受講状況（A校B校比較）をもとに

1. アセスメントテスト結果分析

- ✓ A校よりもB校の方がLevel Lingo（アセスメントテスト）のスコアの伸びた受講者が多い
- ✓ A校では、スコア分布の頂点比較ではプレの方が高得点帯にあるが、ポストの方が高得点取得者の割合が大きい
- ✓ B校では、スコア分布の頂点比較ではポストの方が高得点帯にあり、なおかつ高得点取得者の割合も大きい

2. EdTechツール受講状況考察分析

- ✓ A校の方が修了率が高く、全体的に学習進捗が進んでいる
- ✓ B校は相対的に学習進捗が遅れているが、アセスメントテストではA校よりも高い平均スコアを出している

3. 全体考察

- ✓ アセスメントテストのプレポスト比較でスコアが下がってしまった受講者がいるが、「英語力が下がった」ことは考えにくく、ポストテスト受験時の受験環境など外的要因により実力を発揮できなかった可能性がある。
- ✓ A校の方がEdTechツールによる学習が多かったにもかかわらずアセスメントテストでの成果が相対的に出ていない要因の仮説として、EdTechツール自体のレベルがA校生徒のレベルに合致していなかった可能性が挙げられる。
- ✓ B校はアセスメントテストのスコアがプレの時点でA校よりも高く、EdTechツールのレベルとB校生徒のレベルが合致しており、より効果的な学習が行われた可能性が考えられる。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

使用前の課題（教員）

生徒の個のレベルに応じた学習教材の提供がなかなかできなかったことや英語学習への意欲が低いことが課題でした。貴社のご説明を聞き、その本校の課題の解決の糸口になる教材になるのではないかと感じたため申請しました。

本校は英検に力を入れており、TOEIC対策までなかなか手が回らないこと。

コロナ禍で実際のコミュニケーションが大きく制限され、国際交流や異文化体験ができなくなった状況から、生徒への動機付けをどうすればよいか、学びの深化の新しいプロセスをさがさなければならないという課題があり、今も同様です。

授業時間の確保

アウトプットの間を作るための予算、人員

講義形式の授業では「話す」技能に個別対応することが難しかった。

アウトプットの重要性

英語科教員ではない私が管理という形で指導する立場にいますので、実際に内容を教えることのできないのに、いかがなものかと思っております。

英会話を授業で行っても、実際に使用できる場面が少なかった。
また、そもそも英語への学習意欲が全体として低かった。

英会話の時間がなかなか取れないこと

使用後の変化（教員）

少数ですが、スマホで学習ができ、実用英検の受験準備や大学入試後の入学前学習に活用している生徒がいます。GTECアセスメント受検前に登録し、ICT機器に慣れておいた生徒についても、タブレットで臆せず会話ができているように思います。

特にオンライン英会話は皆積極的に話していて「英語を話すのが楽しくなった」という反応が見られました。

英語を発する行為への抵抗が多少減ったように感じた。

期間が短いのでまだよくわかりません

話そうとする力はついたと思います。

英語を得意とする生徒はどんどん先に進めることに楽しさを感じ、自主的に取り組んでいたようです。

登録し、テスト受検など主体的に取り組めた生徒はすきま時間を活用して学習しようと考えているようです。スマホで学習するツールがなかったら通学時など有効に使えていなかった生徒もいます。

答えやすく、取り組みやすい教材だったのでゲーム感覚で取り組んでいたようでした。

楽しく取り組んでいた生徒が増えた。

放すのが苦手な生徒も、オンライン英会話の先生の優しい指導で話すハードルが下がり、達成感が得られていたと思います。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

生徒からの感想（改善希望点、ネガティブフィードバック）

もっと英語の勉強をしたほうがいなおもった

録音するところは、録音したことが確認出来たら次のレッスンに進めるようにしたほうが良いと思います。

スピーキングの際に、ただ英文を複製するのではなく、日本語を英語に変えて発音するなどの機能があったらより良いと思う。

問題に線が引けると見やすいと思った

英会話が長かった

単語帳などあったらいいなと思った

アプリが重くて勝手にアプリがおちるので微妙でした。

生徒からの感想（ポジティブフィードバック）

Reallyenglishを通して自分の英語の能力が向上したと思います。

この教材だと「今、自分は何が出来て、何が出来ていないか」を知ることが出来て、復習するのに最適なものだと思います。私はリスニングをするのが苦手なので、もっとその力を付けられるような問題があればいいなと思います。

英吾を自分のじかんで勉強できるのでよかった

とても分かりやすく、楽しみながら勉強ができた

学習習慣がない人でも取り組みやすいと思いました。

ひとつひとつがサクッと学べるので、ちょっとした合間でできたので良かったです。

もう少し英語をできるように頑張りたいです

実先にネイティブの方と話すことができてとても楽しかった

外国の人と話すことで自分自身が成長することができたし、レッスンもわかりやすい内容が多かったのでまあまあ楽しめた

慣れるまで翻訳機能を付けれたらいいなと思いました。

少し英語が好きになった

eラーニングは分かりやすかったけど英会話はあまり会話が出来なかった。

【課題（運用面）】（以下、ご担当の先生方へのヒアリングに基づく）

1）他教科の課題が多く、eラーニングに手の回らない受講生が多数いた

（弊社補足：本事業で弊社がやり取りしたのはツールを利用する英語科目の担当教員が主だったため、他教科の連携は想定していなかった。）

→他教科の先生方とも連携して、利用開始前に授業計画や各教科担任が想定している課題などを調整する必要がある。

2）利用端末がスマートフォンだけでは難しさがあった（長文の読みにくさなど）

（弊社補足：弊社オンライン教材は専用アプリを使ってコースを受講頂きますが、ピンチイン／ピンチアウトには対応しておりません）。

→受講に難しさを感じたレッスンについてはスマートフォンではない別のデバイス（PC又はタブレット）に切り替えて学習頂くなど柔軟にご対応頂くよう依頼する。

3）受講者のITリテラシーの習熟度のばらつきから運用面での課題が残った

（メールへのアクセス、パスワード管理、サインインなど）

→利用開始時のオリエンテーションの実施、資料の提供等がきめ細やかな対応が必要である。

【課題（サービス提供面）】

本事業で提供したEZ to Talk 2では2021/12にフィリピンで発生した台風で現地のオンライン英会話スクールが被災、十分にレッスンを提供できない事態が発生した。

→自然災害が発生しても、サービスの安定提供が可能なように、複数拠点でのレッスン提供を検討中である。

■ 会社概要

会社名	株式会社EdulinX
英訳名	EdulinX Corporation
本社	〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-1 パークウェストビル 4F TEL:03-3348-2033 FAX:03-3348-2034 (2020/4/20~)
関西支社	〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田2-7-18 LUCID SQUARE UMEDA 2F TEL:06-6147-3997 FAX:06-6147-3998
設立	2001年10月5日
資本金	1,000万円
売上高	非公開
役員	代表取締役社長 ピーター A. オワンス
事業内容	・ オンライン学習コンテンツの企画、制作および販売 ・ 各種学習支援ツールの企画、制作および販売 ・ 英語関連ビジネスサポート（英文eメール添削サービス等）
主要法人株主	日本産業推進機構
取引先	1,270以上の企業・大学・語学学校（順不同敬称略） トヨタ自動車、伊藤忠商事、日立グループ、サントリーホールディングス、ANA（全日本空輸）、住友電気工業、武田薬品工業、JT（日本たばこ産業）、キャノン、参天製薬、ダンロップスポーツ、千代田化工建設、青山学院大学、北九州市立大学 国際環境工学部、西南学院大学 言語教育センター、日本女子大学、立命館大学、関西大学、京都大学、北海学園大学、明治学院大学 経済学部、四天王寺高等学校、西大和学園中学校、広島修道大学、三重大学、など、

2022年2月現在

本補助金で実際に導入されたコースを体験いただけます！

👉 👉 弊社Webサイトコース紹介ページ 👉 👉

https://www.reallyenglish.co.jp/education_course/

是非お試しください！（関連コースもご紹介しています）



ご質問等ございましたら、お気軽にお申し付け下さい。

●TEL 03-3348-2031 / 06-6147-3997

●e-mail academic@reallyenglish.jp

●担当部署 学校営業部